

平成 26 年度

関寺国有林における括り罠での ニホンジカの捕獲について



滋賀森林管理署

大津市農林水産課鳥獣害対策室監修



目次

1 はじめに.....	1
2 使用した「くくりわな」.....	1
(1)横ばねジャンプ式(筒+押しばね縦使い).....	1
(2)はね上げ式.....	1
(3)吊り下げ式.....	2
3 捕獲の進め方詳細.....	2
3-1 場所選び.....	2
3-2 わなの設置.....	3
3-3 餌撒き.....	3
3-4 わなの見回り.....	4
3-5 止め刺し.....	5
4 その他参考事項.....	6
4-1 捕獲の区分.....	6
4-2 くくりわなのルール.....	6
5 くくりわなの設置手順詳細.....	8
5-1 横ばねジャンプ式の設置手順.....	8
5-2 はね上げ式の設置手順.....	14
5-3 吊り下げ式の設置手順.....	18
6 取りまとめ.....	23
【付録】狩猟名人語録.....	24

1 はじめに

近年、滋賀県内各地でニホンジカ(以下「シカ」という。)の分布拡大や個体数の増加により、農産物や森林での食害による植生の衰退化が深刻化しています。

大津市の市街地に近接する関寺国有林では、森林から市街地へシカが出没し、住居地の庭木の食害や糞害が発生していることから、多くの方々のご協力により、「関寺国有林 括り罠シカ捕獲事業」を実施しました。(期間:平成26年10月3日から平成27年2月28日迄)

「くくりわな」は、見回りなどが容易な里山においては、有効な捕獲方法であると考えます。



図 シカ生息場所(関寺国有林)

2 使用した「くくりわな」

「くくりわな」は、野生動物が踏み込むことでわなが作動し、ワイヤーが足首等を固定するしくみです。

安価、軽量小型、平地が少ない場所でも設置可能の特徴に加え、猟銃と比べて所持許可等が必要でない(わな免許の取得は必要)、人家近くでも利用できる、夜間でも捕獲できるなどの利点が考えられます。

「くくりわな」は、わなの構造と稼動方向で数パターンに大別できます。今回は、代表的な下記3種類のくくりわなを使用しました。(設置手順は「5 くくりわなの設置手順詳細」をご参照下さい)

(1)横ばねジャンプ式(筒+押しばね縦使い)

圧縮して筒に収めた押しばねが上に伸び上がる(ジャンプする)力で、ワイヤーの輪が締まります。

設置箇所を選ばず、設置時間が短いため、熟練者・初心者を問わず扱い易いという長所があります。

(2)はね上げ式

はね上げ式は、ねじりばねがはね上がる力で、ワイヤーの輪が締まります。ばねが強力で、顔の高さに跳ね上がるため、設置する際に安全面で注意を要します。

また、ばねの部分が長く全体が大きいことから、全体を隠し収めるための設置場所が限定されません。

(3) 吊り下げ式

引きばねが縮む力で、ワイヤーの輪が締まります。

吊り下げ式は、ばねを立木に着けて伸ばすことや仕掛けが隠せないことから、獲物に警戒されない場所を探す必要があります。

今回は、吊り下げ式わなの踏み落とし部分(枠と蓋)がとてももろくて軽く、狐や狸等が踏んでも作動する可能性があったことから、踏み落とし枠の中に2本の線を張って踏み強度を増す改良を施しました。また、チンチロの部分の仕掛けを改良、補強しました。

長年の経験や反省を繰り返し、工夫を行うことも必要です。

表 くくりわなの特徴

種類	購入コスト	設置時間	特徴
横ばねジャンプ式	高	短	設置時間が短く、初心者にも扱い易い
はね上げ式	中	中	設置場所が限定される(全体が大きいため) 設置時に安全面で注意が必要
吊り下げ式	低	長	設置場所が限定される(立木に設置するため)

3 捕獲の進め方詳細

「くくりわな」による捕獲は下記の手順で行います。



図 捕獲フロー

3-1 場所選び

「くくりわな」での捕獲は、設置した場所で捕獲できるかどうかが決まります。シカが頻繁に利用している場所、わなの設置に適した場所を選択することが重要です。

今回は、関寺国有林のうち、落葉樹で比較的餌環境が良く、市街地への出入り口となっている箇所に設置しました。餌が豊富でシカの良好な生活圏です。

(1)シカの通り道(獣道)を探す

新しい足跡があり、たくさんのシカが使っているシカ道を選びます。足跡がはっきりしない場合が多いので、雨の後などに探すことも有効です。

(2)設置場所の決定

シカの特性を利用し、行動を予測してわなの設置場所を決めることが捕獲の成功につながります。シカは木の枝や石等を避けて歩く習性があるため、わなを固定する立木があり、立木と立木の間、木の根や倒木、落枝、石などで足をつくのが絞られる場所を探します。障害物の直前も足をつきやすいことから設置場所として適しています。



図 わな設置に適した箇所



図 シカの足跡

3-2 わなの設置

- ・横ばねジャンプ式の設置手順(⇒ 後説5-1)
- ・はね上げ式の設置手順(⇒ 後説5-2)
- ・吊り下げ式の設置手順(⇒ 後説5-3)

3-3 餌撒き

餌は誘引力、費用、扱い易さを考慮して選択します。今回は、米ぬかをわなの周辺に撒きました。米ぬかは、低費用で扱い易く、誘引効果が強いという利点があります。

しかし、米ぬかを使用する場合、シカ以外の獣も食べることから、例えばイノシシを捕獲することがあります。

そのため、イノシシの被害がある場合は、有害鳥獣許可を取得しましょう。

また、駆除しようとする有害鳥獣との餌の特性を考慮し、有害鳥獣駆除対象外鳥獣を捕獲した場合には、錯誤捕獲として放獣することになります。



図 罠の周りに餌を撒く

3-4 わなの見回り

わな設置後は、捕獲した獲物を速やかに発見するため、又、罨と周辺状況を確認するために、最低一日一回の見回りを実施しました。

(1) 捕獲した獲物を速やかに発見する

獲物が掛かっていることの実見が遅れると、ワイヤーを切って逃げたり、狐、狸、ハクビシン等の動物に食べられたり、また、夏場であれば腐るので、後処理(山への埋設等)に手間がかかることとなります。

見回り頻度を上げることは、捕獲した獲物を速やかに発見して、必要以上に傷つけないために有効です。

(2) 罨の状態をチェックする

① 誤作動を起こしていないかを確認する

- 空はじき等、わなが誤作動を起こしていないか確認する
- ワイヤーが切れかかっているか等メンテナンスを行う
- 雨などでわなが露出している場合は、埋め直す
- わな周辺に邪魔な落枝があれば取り除く
- 人間の足跡は極力消す

② 新しい足跡がわなの近くにないか確認する

新しい足跡がある場合、獲物の歩き方やわなへの反応を観察します。

シカの足跡や糞、鳴き声から、「現在どんなシカ(親か子か、雄か雌か、何頭か)がいるのか」が分かります。

仔シカの毛色

雄：黒っぽい
雌：白っぽい

シカの鳴き声

雄：「ピー、ピー、ピー」と長く鳴く
雌：「ピ、ピ、ピ」と短く鳴く

イノシシとシカの見分け方

- イノシシは、わなの臭いを嗅ぎつけ、わなを掘り返すことがある。シカは掘り返さない。
- シカが米めかを食べる場合は、表面をなめる程度
イノシシは蹄形がなくなるまでしっかり食べる

③ 餌の補給を行なう

餌が減っていたり、無くなっていたら補給します。

3-5 止め刺し

「止め刺し」とは、捕獲した動物等にとどめをさすことをいいます。くくりわなによる捕獲で、最も大きな課題のひとつが、この止め刺しであるといえます。「止め刺しは危険な作業である」ことを認識し、安全に行うことが重要です。

今回は、刺殺(槍で刺す、ナイフで心臓付近を刺す)、撲殺(金属バットで殴打する)で止め刺しました。

止め刺し時の心構えを下記に挙げます。

- ▶ わなに掛かったシカがどんなシカかによって、止め刺しの道具を決定し、複数的人数で事前に打合せを行い、捕獲に向かう。
- ▶ 大きなシカ(角持ちの雄シカ)は、人に向かってくるので大変危険であるため、長い柄の槍を用いる。
- ▶ わなに掛かった箇所が前足であると、ワイヤーが近くの木を何重にも周り、動きがとれなくなることがある。後足に掛かった場合には、飛び跳ねることが多く、止め刺しが困難になる。
- ▶ イノシシの大きな個体は、飛びかかってくることもあるため、銃器による止め刺しも検討する。



図 槍 (止め刺しに使用)



図 槍先

4 その他参考事項

4-1 捕獲の区分

鳥獣保護法(「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」)では、鳥獣の捕獲は「狩猟」と「許可に基づく捕獲」に区分されます。

「許可に基づく捕獲」には、被害防止のための「有害捕獲」と個体数を調整するための「管理捕獲」等があります。

表 狩猟と許可に基づく捕獲の区分

捕獲区分	狩 猟	許可に基づく捕獲	
		有害捕獲	管理捕獲
目 的	問わない	被害防止	個体数の調整
免 許	←----- 狩 猟 免 許 ----->		
必要手続	狩猟者登録	許可(市町長等)	許可(県知事)
対象鳥獣	狩猟鳥獣のみ	狩猟鳥獣以外も可能	特定計画(県)で定められた鳥獣
方 法	法定猟法 (銃・わな・網)	法定猟法以外も可能	
期 間	狩猟期間内	1年中可能	
区 域	制限区域を除く	制限区域内も可能	

4-2 くくりわなのルール

くくりわなは、区別なく動物を捕獲してしまうこと、捕獲される動物を損傷してしまうことから、下記の通りルールが設けられています。(鳥獣保護法施行規則第10条第3号他)

【禁止事項】

- ✓ 体を吊り上げてしまうもの
- ✓ ワイヤーの直径が4mm未満のもの
- ✓ 「より戻し」が装着されていないもの
- ✓ 「締め付け防止金具」が装着されていないもの
- ✓ 輪の直径(楕円形の場合は小さい方)が12cmを超えるもの
- ✓ 1人で31個以上のわなを掛けること



図 より戻し

獲物が暴れたとき
ワイヤーの絡まりを防止

【義務事項】

- ✓ 土地の所有者の承諾
(作物のある土地のみ義務となるが、トラブル回避のためには全てで推奨)
- ✓ 標識の取り付け
- ✓ 原則一日一回以上の見回り
- ✓ 錯誤捕獲した場合は、放獣する



図 わな用標識

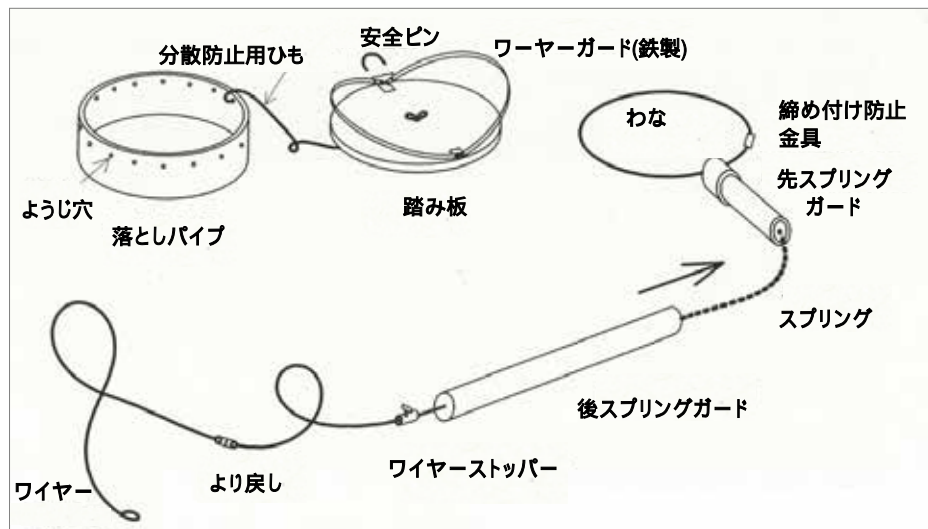
1字の大きさが1cm角以上で、住所、氏名、連絡先、知事名、狩猟の場合は登録年度及び登録番号、許可の場合は許可番号を記載した金属製又はプラスチック製の標識を見やすい場所に設置する

5 くくりわなの設置手順詳細

5 - 1 横ばねジャンプ式 わな(筒+押しばね 縦使い) 設置手順



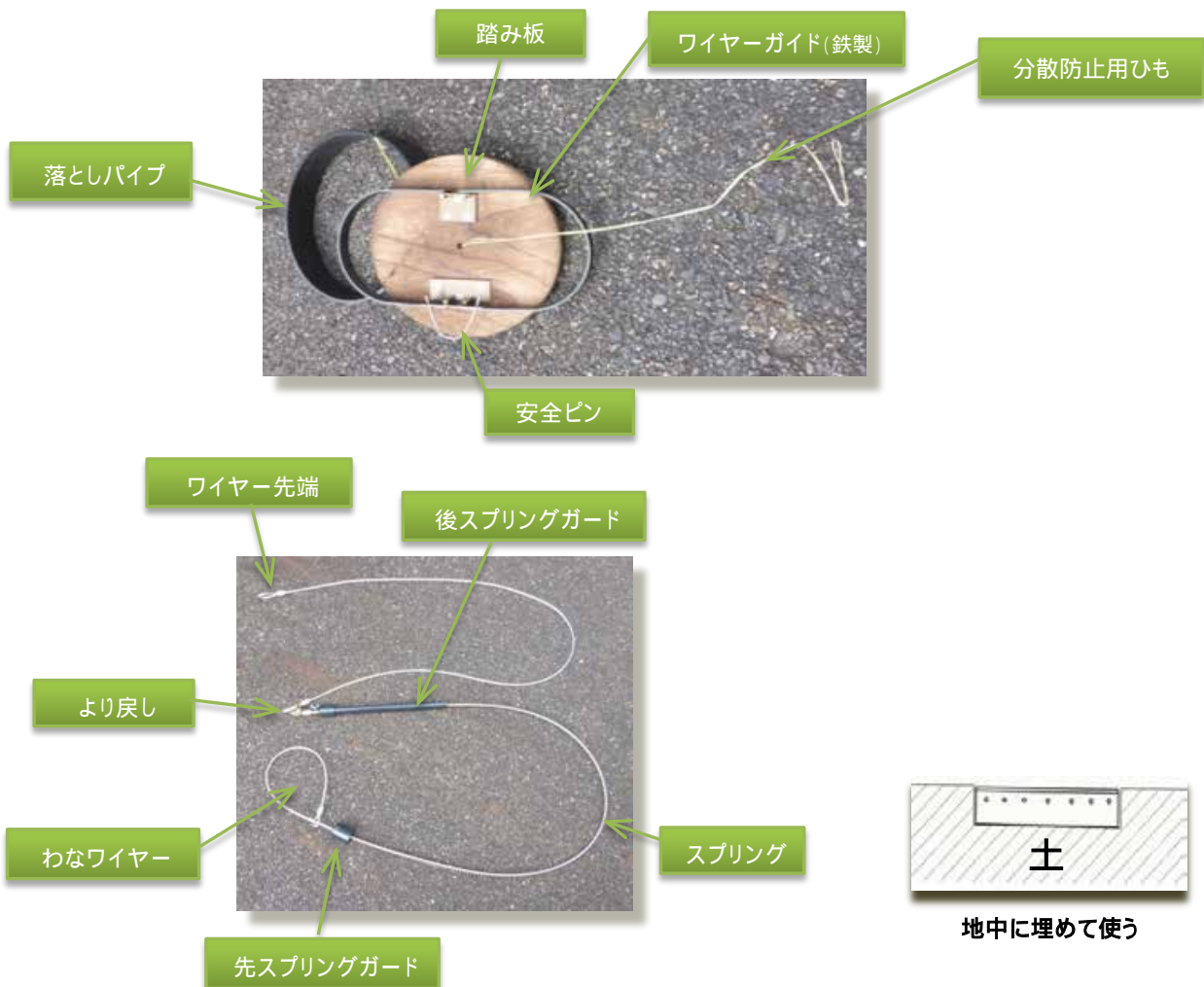
部品全体



【仕様】

わな直径 20cm
 ワイヤー長さ 5m
 ワイヤー径 4mm

部品名称





1

(事前準備)

わなワイヤーを踏み板のワイヤーガードの溝に架ける



2

(事前準備)

(1)ワイヤー先端を固定されている杭等に引っ掛ける
(2)後スプリングガードを先スプリングガードの方へいっぱい引っ張る



3

(事前準備)

スプリングをスプリングガードに入れた後にワイヤーストッパーでしっかり止める



4

(設置箇所の検討)

シカが生息する林内を選ぶ



5

(設置箇所の検討)

シカの通り道(獣道)を選ぶ



6

(設置箇所の検討)

シカの足跡がある箇所を選ぶ



7

(設置箇所の決定)

獣道に樹木の枝が横たわっている箇所の先側が適地である



8

(設置箇所の決定)

わなを置いて設置箇所を決定する



9

(設置箇所の決定)

わなの設置に取り掛かる



10

(踏み落とし穴を掘る)

設置箇所の落葉、落枝等を除去する



11

(踏み落とし穴を掘る)

踏み落としの穴(深さ10~15cm)を掘る



12

(落としパイプの設置)

落としパイプを置いて掘り穴を調整する



13

(落としパイプの設置)

落としパイプに爪楊枝を挿す



14

(落としパイプの設置)

爪楊枝の本数で踏み板の踏み強度を調整する



15

(落としパイプの設置)

設置した落としパイプの周りに土を入れる



16

(踏み板の設置)

落としパイプの上に踏み板を置く
(安全ビンの確認)



17

(踏み板の設置)

ワイヤーストッパーが下側になるよう、ワイヤーガードの向きを決定する



18

(踏み板の設置)

踏み板の設置完了



19

(ワイヤーの設置)

スプリングガードからワイヤーを伸ばし、立木へ括る
(止め刺しの時に危険がないよう、絶対に折れない木を選ぶ)



20

(ワイヤーの設置)

ワイヤーの長さは最低でも、寄り戻しが活動する長さが必要である



21

(ワイヤーの設置)

ワイヤー先端を立木に括る
(この場合は、固定用シャックルを使用している)



22

(安全装置の取り外し)

安全ピンを外す



23

(仕上げ～土を被せる)

獲物を警戒させないよう、土を被せ、元の地面の高さになるよう整地する(覆いは盛り上がらないように注意する)



24

(わなのカモフラージュ)

わな全体に土や木の葉等をかけてカモフラージュする



25

(設置完了)

< 近景 >

落ち葉などで自然の状態にカモフラージュしている



26

(設置完了)

< やや遠景 >

工夫ポイント

シカの習性を利用し、わなへ誘導する



寄せ木やまたぎ棒を置き、シカの足の運びを誘導する



わなに誘導するように
餌(米ぬか)をわなの周辺に撒く

5 - 2 はね上げ式わな 設置手順

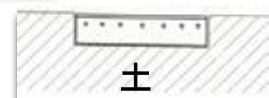
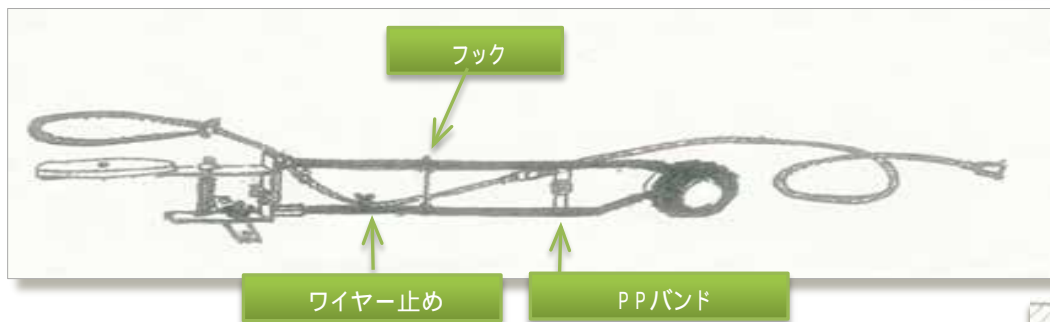
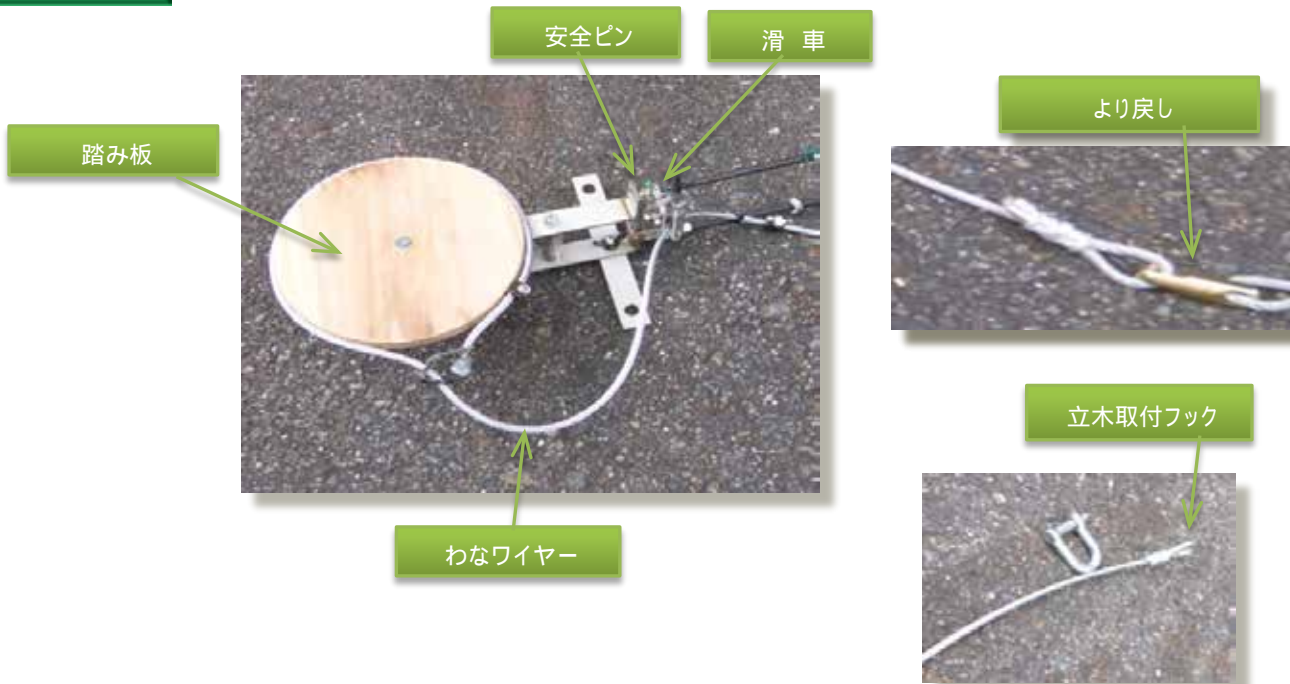


部品全体



部品名称	用途・使用方法
安全ピン	使用時には爪楊枝と差し替える。 荷重をかけることにより爪楊枝が折れ、踏みやすくなる(足を引かない)
滑車	ロックタイで固定している。締め上げたら外れるくらいの強さで止める。 ワイヤーをすべらせて締め上げる
ワイヤー止め	ロックタイで固定している。切れやすい銅線等で固定すること。 締め上げるとき、前方に行こうとするのを止め、ワサの締りを助ける
フック	安全用。使用時には外す。
PPバンド	安全用。使用時には切断するか外す。

部品名称



地中に埋めて使う



1

(設置箇所の決定)

- ・獣道に樹木の太い枝等が横たわっている箇所が適地である
- ・獣道に直角に設置する



2

(事前準備)

- ・踏み落としの穴(深さ10~15cm)を掘る



3

(レバーとバネの穴を掘る)

- レバーとバネ全体が収まる穴を掘る
(獲物を警戒させないため、全体を隠す)



4

(踏み板の設置)

- ・わな全体が埋まるように調整する



5

(わなワイヤーの設置)

- ・わなワイヤーを踏み板の外側に設置する



6

(わなの調整)

- ・わなワイヤーの内側に鉄の棒を打ち込む
(獣が踏んだ時、わなワイヤーが棒にそって立ち上がる)



7

(わなの設置)

ワイヤー先端を太い蔓に括る
(止め刺しの時に危険がないよう、絶対に折れない木を選ぶ)



8

(安全装置の取り外し)

・安全ピンを抜き、爪楊枝と挿し替える
・フック、PPバンドを外す



9

(わなのカムフラージュ)

わな全体に土や木の葉等をかけてカムフラージュする



10

(設置完了)

近景
シカが足を置く場所を誘導し、踏み板を踏ませるよう、
寄せ木やまたぎ棒を置く



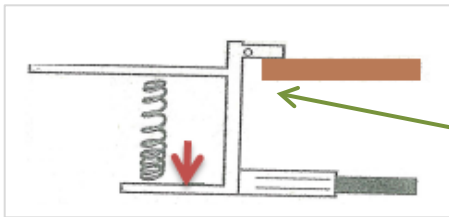
11

(設置完了)

遠景

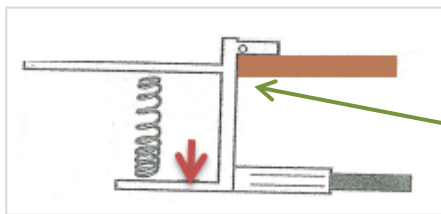
工夫ポイント

踏み込み強度を調節する



浅く入れる
踏み込強度小

浅く装着した場合は、体重の軽い動物が踏んでも作動する



深く入れる
踏み込強度大

深く装着した場合、軽い衝撃で作動せず、空はじきを起こさせない

ねじりばねの取り付け深さを変えることで、踏み込み強度の調整ができる



5 - 3 吊り下げ式わな 設置手順

部品全体



ワイヤー部分

わなワイヤー

より戻し



部品名称

チンチロ部分各部品



踏み落としの枠



スプリング



固定用紐



スプリングを立木に固定するために利用



1

(踏み落とし枠設置)

踏み落とし枠の設置箇所を決める
(獣道の中心に置くことよい)



2

(仕掛け設置)

チンチロを改良した仕掛けの設置箇所を決める



3

(スプリング設置)

スプリングの設置箇所を決める獣道に隣接した、
うで程度の太さの立木を選ぶ



4

(スプリング固定)

スプリングを伸ばした状態で固定する
(張る角度は、45度～90度)



5

(踏み落とし枠設置)

踏み落とし枠を土を掘って埋め込む



6

(踏み落とし枠の強度補強)

ビニール線を用いて、踏み込み強度を調整する



7

(踏み落とし蓋設置)

踏み落とし蓋にワイヤー先端を巻き、踏み落とし杵の上に設置する



8

(ワイヤーを括る)

ワイヤー先端を立木に括る



9

(踏み落とし蓋に土を被せる)

踏み落とし蓋に2本の鉄の棒を立てる
(わなが作動した際にスプリングの力で上に上がる仕掛け)



10

(設置完了)

スプリングの設置完了



11

(設置完了)

仕掛け完了
(チンチロを完了したもの)

工夫ポイント

わなの改良 ~ 踏み落とし枠・チンチ口の補強

踏み落とし枠の中に針金を通し、踏み強度を補強



針金

わなを作動させるための体重設定

「踏み落とし蓋」「踏み落とし枠」がもろく軽いもので、狐や狸等軽い動物が踏んでも作動する可能性があったため、踏み落とし枠の中に針金を通し、踏み強度を増した

針金

チンチ口の改良



チンチ口の仕掛けを作り直して、吊り上げ強度を増した

<参考> ワイヤーの結び方



6 取りまとめ

当事業「関寺国有林括り罠シカ捕獲事業」では、括り罠 22 基(①横ばねジャンプ式 19 基、②はね上げ式 2 基、③吊り下げ式 1 基)を設置し、捕獲したシカは 15 頭(雄 6 頭、雌 9 頭)でした。

捕獲にかかる作業は、「わな設置場所探し」「わな設置準備」「わな設置(再設置含む)」「見回り」「捕獲後の止め刺し(後処理を含む)」ですが、概ね半分が見回り作業です。「見回り」作業は、単に罠に括られていることを確認するだけでなく、シカの足跡や糞の有無、餌撒きと餌の食べ方、落ち葉や落枝の状況などをつぶさに把握し、いかに罠に括れるかを考えて工夫・努力する作業です。

具体的にどのようなことに留意して捕獲するために努力した点については、この度、狩猟を実施して頂いた方の日誌の記載事項や実際に聞いた言葉を「狩猟名人語録」として掲載します。

括り罠は、「安価」「軽量小型」「森林内でも設置可能」などの利点を有しており、見回りなどが容易な里山においては、有効な捕獲方法であると考えます。

今後、一人でも多くの方々に括り罠を使ったシカの捕獲に新たに参加して頂ければと思います。

表 わな別捕獲実績

罠種類	設置個数	捕獲実績
横ばねジャンプ式	19 基	シカ 14 頭 / イノシシ 3 頭
はね上げ式	2 基	シカ 1 頭
吊り下げ式	1 基	

表 種類別・捕獲部位別捕獲数 (単位/頭)

種類			
雄子	雄親	雌子	雌親
2	4	3	6

捕獲部位			
左前足	左後足	右前足	右後足
7	1	7	0

【付録】 狩猟名人語録

1 気構え

- ◇ 苦労なくは捕れません、楽をして獣は捕れません。
- ◇ 前回捕れてから約1か月間苦労しました。また、捕ります。
- ◇ 2回(くくり罠を)外されていましたが、やっと括りました。
- ◇ 2日続けて2頭捕りました。先に楽をしたら後は苦労します。先々良ければ後悪い。これが猟です。頑張ります。
- ◇ 安全に止め刺しが出来るように、入念な打ち合わせをしてから入山します。

2 設置



設置場所の選択と設置後のメンテナンスが重要です

- ◇ 括り罠は真ん中を踏ませれば百発百中捕れる。いかに真ん中を踏ませるように設置するかが経験と腕の見せ所です。
- ◇ 設置後のカモフラージュが大変難しい。罠歴のある私でも神経を使い、場所によっては色々苦労します。
- ◇ シカの通り道が確認できたので、新たに括り罠を設置しました。
- ◇ 捕獲した場所は荒れており、また、設置するための後消しは大変です。

3 見回り

- ◇ 台風による雨のため餌が駄目。後日、餌撒きをやり直します。
- ◇ 雨や強風の日は、設置箇所のワイヤーが露出したり、罠の上に枯れ枝が乗ってしまう場合があります。
- ◇ シカの足跡がないので中腹まで山を登ったら、シカの大きな雄の足跡を見つけた。シカは上の方に居ると思う。
- ◇ シカの親子の足跡を確認した。
- ◇ 30cm 程の雪が積もっている。大きなシカの足跡があり、雪の中を上へ登って行った。この足跡から見ると大きい角持ちのシカである。
- ◇ このケモノ道は良く通る道だと思う。同じ場所で5回以上捕獲している。
- ◇ 餌を食べに来ていないので少し上まで足跡を探しに行ったが、古い足跡はあるが新しい足跡は見当たらなかった。またすぐに餌を食べに来る。待つしかない。
- ◇ イノシシ(3~4 歳位)が餌を食べにきた足跡がある。括り罠の設置場所を知っているのか？賢い。
- ◇ イノシシが餌を食べに来ている。50kg程度のもの。鼻が敏感で、罠に気づいている。
- ◇ 昨日イノシシを捕獲したので、さすがに今日は警戒して出てこない。
- ◇ 昨日イノシシを捕獲した括り罠から5m離れた場所で大きな雌シカを捕獲した。こんな事は珍しい。
- ◇ 見回りは毎日行なわないといけない。3日程度経ってから発見すると、既に食べられて個体が半分程度しか残っていない場合がある。

4 括り罠の特性



はじかれたら手直し、改良を重ねます

- ◇ 真ん中を踏むように石や枯れ木をセットしているが、なかなか真ん中を踏まない。
- ◇ ワイヤーの輪の直径が昔は 30cm 以上であったものが、今は人に危険であるため 20cm 以下に規制された。そのため、踏み板の端を踏む場合が多い。50 年以上括り罠をやっているが、経験している者でも難しい問題だ。
- ◇ 捕獲後の括り罠のパネが変形したため、新しい括り罠と取り替える。
- ◇ 同じ括り罠で3回外された。この罠は4～5回括っており、ワイヤーの締まりが緩い又は締まりが遅いので外されていると思われる。新しい罠に交換する。
- ◇ 括り罠が空はじきしていた。これは踏み込んで作動した瞬間に足を動かして逃げたものと思われる。踏み込みが浅い時点でパネが作動したため、瞬間的に足を動かして逃げたものと思われる。
- ◇ 踏み込みが浅い場合には、括ったとしても位置が足の主蹄の上側であれば、逃げられる場合がある。しっかり踏み込んでいけば副蹄の上側で括れて逃げられることはない。
- ◇ 「より戻し」は、ワイヤーの輪からの距離が短い方が捻れが少なくなり、威力を発揮する。
- ◇ イノシシが暴れてワイヤーを切って逃げていった。括り罠のワイヤーの距離が長く、捻れやすかったため、ワイヤーが切れ易かった。

5 シカ・イノシシの特性



- ◇ シカは、括り罠がある場所の餌を食べていない。よく知っている。
- ◇ シカが餌を食べる場合は表面を舐める程度だが、イノシシは跡形がなくなるまでしっかり食べる。
- ◇ シカは、新芽・新葉を主に食べ、落ち葉を餌にすることはない。
- ◇ シカは、餌が少ない場合は常緑樹(ヒサキの葉等)を食べることがある。
- ◇ シカが庭先の樹木等の葉を食べるのは、山に餌が少なくて食べるのではなく、庭木の葉の味が山の樹木等の葉と違っているからである。
- ◇ シカの角が細くて貧弱な場合は、餌事情が悪い場合である。
- ◇ シカは交尾の時期(9月～11月初旬頃)には、雌親シカを追ってくる。
- ◇ 本山は餌が豊富であり、捕獲しても新たなシカが縄張りを作るという特徴がある。
- ◇ 昨日、猟師が犬で追猟していたと思う。シカは追われたら1～2日は元に帰って来ない。
- ◇ シカの鳴き声ピーピーと2回鳴いた。仲間に知らせる雄の声だ。2匹以上いると思う。
- ◇ イノシシの親子が来ているので、シカが用心している。
- ◇ 今回捕獲した雄シカは、ボスクラスのシカであり、縄張り外の雄シカが新たに本山に入ってくることになる。
- ◇ イノシシは括り罠のにおいを知っている。
- ◇ イノシシが括り罠を嗅ぎ分け、鼻で土をどけ、踏み板とワイヤーを露出させていた。
- ◇ イノシシが餌を撒いた場所から括り罠の 10cm 程のところまで鼻で穴を掘り、ワイヤーを露出させた。
- ◇ (罠にかかった)イノシシが穴を掘って隠れていた。
- ◇ 50kg 程のイノシシが括られて暴れて逃げた。おそらく爪に括られたと思う。
- ◇ アライグマに罠をはじかれた。

6 止め刺し等後処理



止め刺しが一番大変です

- ◇ 捕獲した跡の埋葬、後始末が一番大変です。
- ◇ シカが大きく危険なので、槍で止め刺しました。
- ◇ 角を持つ大きなシカは、人に向かってくる場合があります、大変危険なので、長い槍を作り直しました。
- ◇ (前足に罠が掛かった場合)ワイヤーが木を何重にも周って、シカが前倒れ状態になっていたため、槍で突き易かった。
- ◇ (後足に罠が掛かっていた場合)飛び跳ねるため、槍で突きにくかった。
- ◇ シカの場合の止め刺しは槍で実施できるが、イノシシの大きな個体は、槍では飛び掛ってきて危険なため、鉄砲での止め刺しが必要だ。

